



展示風景

郷土資料館では令和4年10月8日（土）から12月4日（日）まで第12回特別展「敦 中島家の系譜—中島敦没後80年—」を開催しています。代表作「山月記」で知られる作家・中島敦の生涯と作品について振り返りながら、久喜で漢学・国学を教えた祖父・中島撫山やそれに続く中島家の系譜についてご紹介しています。今回の展示では、当館所蔵資料や久喜市公文書館所蔵資料をはじめ、県立神奈川近代文学館やさいたま文学館、その他関係者の方々からお借りした関係資料を多数出品しています。普段、見るできない資料もありますので、ぜひこの機会にご観覧ください。

※次頁では、特別展で取り上げている敦の作品「斗南先生」^{となん}について、その見どころをご紹介します。

目 次

- 中島敦作品「斗南先生」特集・・・・・・・・・・ 2
- 埼玉県東部地区連携展示「明治天皇と久喜」を開催しました！・・・・・・・・・・ 3
- お知らせ情報・・・・・・・・・・ 4

となん 中島敦作品「斗南先生」特集



中島斗南 肖像写真
昭和5年(1930)
鷺宮神社蔵(当館寄託)

●敦は「斗南先生」に似ていた？

「斗南先生」は中島敦が伯父の中島斗南を題材に執筆した作品です。作中では、敦の分身である主人公の三造が回想する形で、斗南との思い出が綴られていきます。斗南は人をよく罵り、癩癩のしを起す性格のため、甥や姪から「やかまの伯父」と呼ばれていました。そんな斗南は幼い頃から優秀で、6歳にして書を読み、13歳で漢詩・漢文を上手にこなしたとされます。敦も同じく、幼い頃から秀才で、親戚からは頭の良さや落ち着きのないところが、二人ともよく似ていると言われていました。作中で三造(敦)はその点を認めつつ、意思や感情などの内面性のほか、移り気なところ、旅行好きなど、猫好きなど、多くの類似点を挙げています。また、作中では触れていませんが、実は斗南は若い頃に小説を書いたり、海外小説の翻訳も行うなど、小説に対する興味をもっていました。このように、敦と斗南先生は性質的に似たような部分があったようですが、三造(敦)は「伯父のはっきりした男性的な風貌に似なかったことは残念」と書いています。斗南の肖像写真を見ると、確かに顔立ちのはっきりした人だったようです。

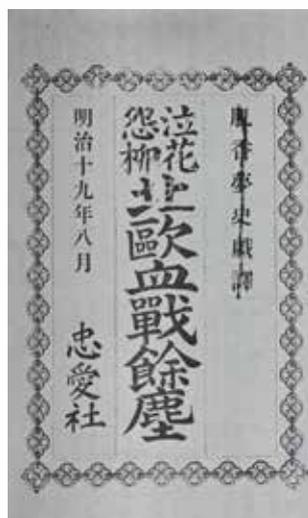
●「利根川べりの田舎」って久喜のこと？

作中、三造(敦)は「利根川べりの田舎」から送られた斗南の葉書を受け取ります。この「利根川べりの田舎」とは、実は久喜の実家のことです。敦の祖父・中島撫山は明治6年、久喜に「幸魂教舎」という私立学校を開き、地元の住民たちに漢学や国学を教えるようになりました。斗南もこの学校の教壇に立ち、明治15年には父・撫山から学校の経営を引き継ぎました。その後、弟に学校の運営を任せ、自身は中国へ渡りますが、昭和5年に病気を患って帰国します。同年に斗南は病院に入り、最後は洗足の親族の家で最期を迎えます。「斗南先生」では、久喜に戻った斗南からの葉書をきっかけにして、大学生の敦と斗南との交流が描かれていきます。ちなみに、敦は2歳から6歳までの間、久喜の実家に預けられ、祖母や伯母たちの手で育てられました。

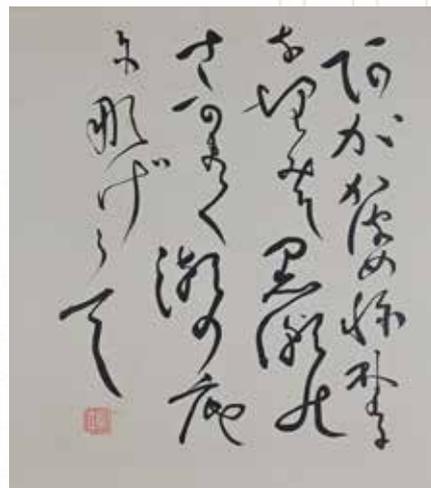
●変化していく敦の「斗南先生」への思い

実は、作中では三造(敦)の「斗南先生」への思いが三つの時代の時間軸で描かれています。まず高校時代の敦の思いで、これは若く、正義感をもった頃の敦が斗南先生の言動を強く非難する思いです。次に大学時代の敦の思いで、これは斗南の死と直面した敦が、自身への羞恥心や斗南への同情心などを織り交ぜた思いです。そして最後は敦が30歳になり、「斗南先生」の小説を発表するに至った頃の思いで、これは愛情のような強いシンパシーをもって斗南を追慕する思いです。この点に注意しつつ、文章に表れている思いの変化を考えながら、小説を読んでも面白いかもかもしれません。

(郷土資料館学芸員 星野 諒)



森體訳・肌香夢史戯訳
『泣花怨柳 北欧血戦余塵』
明治19年(1886)
(柳田泉編『明治文化資料
叢書 第9巻翻訳文学編』
(風間書房、昭和34年)か
ら引用)
個人蔵
トルストイの『戦争と平和』
を一部翻訳したものです。
肌香夢史は斗南のペンネーム。



斗南先生絶筆 昭和5年(1930)
当館蔵

斗南遺筆の色紙の複製で、「斗南先生」の作中でも登場します。敦は葉書に書かれた斗南の字を「乱暴に美しく書きなぐった」と表現していますが、色紙の字を見てもその勢いと芸術性がうかがえます。



埼玉県東部地区連携展示 「明治天皇と久喜」を開催しました！

明治時代、天皇は近代国家形成途上にある地方の実情を自ら見て回るため、とても多くの行幸をしました。その中で、久喜市を含む埼玉県東部地域にも数多くの足跡を残していることから、宮内庁宮内公文書館協力の下、埼玉県東部地域の展示施設が連携する形で「埼玉県東部と近代の皇室」を開催することになりました。久喜市立郷土資料館では、令和4年7月20日から9月4日までの期間、「明治天皇と久喜」と題して明治天皇に関する久喜の歴史を紹介しました。

久喜市域における明治天皇の足跡としては、栗橋への三度の行幸(明治9年・14年・19年)と、鷲宮への行幸(明治29年)があります。

栗橋への行幸の内、明治9年・14年は、北海道・東北方面への巡幸の道中に栗橋宿の池田鴨平宅で御小休したものでした。また、完成したばかりの権現堂堤を明治天皇が視察した際には、築堤の功労者として池田鴨平・田口清平らが御前に招かれました。

明治19年は、鉄道が利根川を渡るための鉄橋が完成した際の開通式のための行幸がありました。明治天皇は汽車で栗橋駅まで来た後、歩いて鉄橋を渡り、船に乗って鉄橋を眺めながら戻りました。

鷲宮への行幸は、明治29年に鷲宮で行われた近衛師団の軍事演習を視察するためのものでした。視察時の休憩所として鷲宮神社の社務所が使われました。このときの行幸を伝える石碑が鷲宮神社やその周辺に今も残されています。

また、明治天皇が崩御した後に創建された明治神宮には、久喜市出身の本多静六が中心となって植栽した広大な森があります。その中には久喜市から運ばれた木もあり、100年経った今も大きくそびえ立っています。



明治天皇御真影(掛軸) 当館蔵

(郷土資料館学芸員 竹内俊吾)

展示資料一覧

テーマ	展示資料	所蔵
導入	明治天皇御真影(ポスター)	個人
	御巡幸御行列之図式(画像)	宮内庁宮内公文書館
明治9年の行幸	奥羽巡幸図会 利根川鯉漁天覧(画像)	埼玉県立歴史と民俗の博物館
	明治天皇利根川御渡船之図(画像)	宮内庁宮内公文書館
	葛飾郡幸手行幸堤側面之図(画像)	宮内庁書陵部図書寮文庫
	行幸堤之碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	権現堂新堤の巻絵図(画像)	宮内庁宮内公文書館
	田口清平とその家族を描いた油彩画(画像)	個人
	田口翁之碑銘文(画像)	個人
	栗橋御小休所写真(画像)	宮内庁書陵部図書寮文庫
	御小休址記念絵葉書	鷲宮神社(当館寄託)
	池田鴨平肖像写真	久喜市立郷土資料館
	池田鴨平屋敷図(画像)	宮内庁宮内公文書館
	明治14年の行幸	侍従北條氏恭筆 巡幸記事(画像)
巡幸日誌(画像)		宮内庁宮内公文書館
明治19年の行幸	栗橋駅の蒸気機関車 古写真(画像)	個人
	渡船場から見た利根川鉄橋 古写真(画像)	個人
明治29年の行幸	明治天皇行幸記念碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	軍事演習視察時の御列(画像)	宮内庁宮内公文書館
	鷲宮神社御休憩所略図(画像)	宮内庁宮内公文書館
	鷲宮神社社務所(画像)	鷲宮神社(当館寄託)
	鷲宮神社古器物古文書目録	鷲宮神社(当館寄託)
久喜小学校沿革誌	久喜小学校	

テーマ	展示資料	所蔵
行幸碑の建立	明治天皇宸懸之処碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	明治天皇御用水之井碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	明治天皇御乗馬繋留処碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	明治天皇聴演習講評之処碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	明治天皇觀覽演習之処碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	「明治天皇宸懸之処」題名草稿(画像)	鷲宮神社(当館寄託)
	渡辺幾治郎書状	鷲宮神社(当館寄託)
	鷲宮神社社号標(画像)	久喜市立郷土資料館
	蘇峰参拝記念植樹の碑(画像)	久喜市立郷土資料館
	鷲宮神社を参拝する徳富蘇峰夫妻写真(画像)	鷲宮神社(当館寄託)
明治神宮の建立	明治神宮一の鳥居(画像)	久喜市
	本多静六肖像(画像)	久喜市
	明治天皇記念『行道樹篇』附録蔭樹	個人
	明治神宮地鎮祭 絵葉書(4枚)	個人
	明治神宮で撮影の本多静六 写真	久喜市
	本多静六が身に着けた冠	久喜市
	本多静六が身に着けた沓	久喜市
	明治神宮に運ばれた各地の献木(画像)	久喜市
	白石昌宇の献木願(画像)	埼玉県立文書館
	明治神宮献木人名簿(不二道孝心講)	久喜市
明治神宮献木行金簿(不二道孝心講)	久喜市	
明治天皇御真影(掛軸)	久喜市立郷土資料館	

令和4年度の学芸員実習を行いました！

郷土資料館では毎年、学芸員資格取得を目指す大学生の学芸員実習生を受け入れています。実習は例年7月から9月の間に行われ、実習期間は2週間程度です。実習内容は毎年変わりますが、主に資料の調査や整理、収蔵資料を用いたスポット展示などの実習を行います。

令和4年度は昭和から平成のおもちゃや遊びをテーマにしたスポット展を実習生が企画し、実際に展示資料の選定やパネル・キャプションの作成をしてもらいました。また、夏休み子ども歴史広場では、子どもたちに勾玉の歴史を説明したり、作り方を教えたりと大いに活躍してもらいました。

次年度も受け入れを予定していますので、学芸員資格取得を目指している学生の方はホームページをチェックしてみてください。

学芸員実習のページ⇒



電車で

- 東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩 15分
- JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「豊野コミュニティセンター」行きバス「図書館入口」下車 徒歩 2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから 10分
久喜インターから 25分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第 14 号

発行 令和4年(2022)11月18日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮 5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります

